



第7回コンサート

混声合唱塾レント

2023年9月30日(土)

開場 13:30 開演 14:00

茅ヶ崎市民文化会館 大ホール

後援：茅ヶ崎市、茅ヶ崎市音楽協会



ウクライナ人道支援チャリティー

プロフィール



早河明子 (ソプラノ) 指揮者

湘南白百合学園、国立音楽大学声楽科卒業。岩崎由紀子、Razvan sararu 各氏に師事。日本演奏家コンクール第一位。ルーマニア、ウクライナはじめ各国の国立歌劇場にて「椿姫」「仮面舞踏会」「トスカ」「蝶々夫人」「トロヴァトーレ」「トゥーランドット」「アイータ」他 主役として数多くの公演に招聘される。現在そのレパートリーは22演目に達している。又歌手を目指す人を対象とした講習会や公演を、

日本とルーマニアで企画主宰。両国の文化交流にも尽力している。一方、合唱の分野においてもボイストレーナーとして数々の団を指導し、また神奈川県合唱連盟主催の合唱祭の講師やキュービー協賛「全日本お母さんコーラス」の選考委員を務めるなど、活動の場を広げている。「青葉区オペラ講座」講師。「湘南コンサートの会」声楽部門プロデューサー。一般社団法人「湘南エールアンサンブル」理事。



林 紀子 (ソプラノ) 指揮者

湘南白百合学園、国立音楽大学声楽科卒業。大場孝子、小川雄二、岩崎由紀子の各氏に師事。第14回新・波の会日本歌曲コンクール入選。「藤沢市立看護専門学校」の合唱、鎌倉「Sotto Voce」、藤沢市老人センターやすらぎ荘にて「童謡・唱歌よろこび会」、茅ヶ崎混声合唱塾「レント」を指導している。

平塚音楽家協会、ぐるーぶ・なべ各会員。藤沢にて「花の木音楽教室」を主宰。2020年12月、浜野美津子作曲による「日本の叙情歌」第2集CDを発売中。美しい日本語で歌い上げる詩情豊かな日本歌曲は定評がある。



佐藤やえこ (ピアノ)

桐朋学園音楽大学付属高校音楽科、同大学ピアノ科卒業。ピアノを三浦みどり、井口秋子、照澤惟佐子の各氏に、チェンバロを鍋島元子に師事。同大学附属「子供のための音楽教室」元講師。廣瀬量平作曲「海の詩・海鳥の詩」をはじめ、中学生のための合唱曲のレコーディングを多く残している。現在、神奈川県各地で4団体の合唱団のピアノ

ストを務める。歌、器楽とのアンサンブルを主に数多くのコンサートに出演。アンサンブル・アスコルタメンバーとして地域の人、子どもたちに音楽の輪を広げる活動もしている。平塚音楽家協会会員。ピアノ一台を自在に操るみごとなオーケストラレーションとドラマティックな音楽の作りで好評を博している。

第7回 コンサート に寄せて

早河、林、佐藤

本日は「第7回コンサート」にご来場頂き、心より感謝申し上げます。今回は2019年9月に開催されました。早いものであれからすでに4年が経過しました。思うように活動出来ないその間を乗り越え、今日のこの日を目標にメンバーの熱意はひとつも萎えることはありませんでした。混声合唱ならではの澁刺とした大きな音楽を目指し大胆に、そしてコツコツと音作りに励み、塾員の持っている音楽を引き出し、1つにまとめ上げるプロ

セスは、合唱指導の醍醐味でもあります。本日のコンサートは、前半をゲストによるミニオーケストラ伴奏、休憩を挟んで後半は、コロナ禍の中「お家で合唱！レントスタイル」と名付けたYouTubeレッスンで、譜読みをした「旅」「愛唱歌」をお聴き頂きます。本日は「歌える喜びを声に乗せて」1人ではできない合唱という世界を味わい、楽しんで歌いたいと思います。暖かくお見守り頂ければ幸いです。

ゲスト プロフィール



小川智子 (ヴァイオリン)

東京藝術大学器楽科卒業。大塚ゆき子、兎束龍夫、福元裕、テオ・オロフ各氏に師事。1972～1984年、オランダのロッテルダムフィルハーモニー交響楽団で第1ヴァイオリン奏者を務める。帰国後、フリーの奏者として室内楽中心の活動を行う。また平塚めぐみこども園にて定期的にボランティアコンサートを行っている。



佐藤史土 (チェロ)

幼少よりピアノを学び、作曲とチェロを独習する。学生時代、環境音楽家の故・吉村弘らと「麗会」にて即興演奏を手がける。現在は作曲、編曲、室内楽の演奏に加えライブハウス、ギャラリー等での即興演奏を継続的にしている。また様々なイベントにおいてアーティスト、舞踏家、朗読家とのコラボレーションに注力している。



中村 梓 (打楽器)

東京芸術大学打楽器専攻卒業。これまで東京藝術大学器楽科打楽器専攻卒業。有賀誠門、岡田真理子、佐藤直美、高橋美智子、杉山智恵子の各氏に師事。2006年よりマリimbaとピアノによるニューイヤークンサートを毎年開催。またNHK・ラジオなどにも出演。現在、ソロ・室内楽オーケストラなどの演奏活動の他、中学・高校のプラスバンドなど後進の指導にあたる。

プログラム

1st Stage 宗教曲

アヴェ・ヴェルム・コルプス 作曲 モーツァルト
〈レクイエム〉より 作曲 モーツァルト
 ディエス・イレ (Dies irae)
 ラクリモーザ (Lacrimosa)
〈オラトリオ「メサイア」〉より 作曲 ヘンデル
 ハレルヤコーラス

指揮 早河明子
ヴァイオリン 小川智子
チェロ 佐藤史土
打楽器 中村 梓
ピアノ 佐藤やえこ



2nd Stage ミュージカル・オペレッタ

〈ウエスト・サイド・ストーリー〉より 作曲 レナード・
 トゥナイト (Tonight) バーンスタイン
〈メリー・ウィドウ〉より 作曲 フランツ・
 メリー・ウィドウ・ワルツ レハール
〈こうもり〉より 作曲 ヨハン・シュト
 なんと素晴らしい宴! (器楽演奏) ラウス2世
 シャンパンの歌 (ソプラノソロ 早河明子)
 さあ仲よく二人 (ソプラノソロ 早河明子)

指揮 林 紀子
ヴァイオリン 小川智子
チェロ 佐藤史土
打楽器 中村 梓
ピアノ 佐藤やえこ



◇◇◇◇ 休憩 (15分) ◇◇◇◇

3rd Stage 混声合唱のための組曲「旅」

	作曲 佐藤眞
旅立つ日	作詩 田中清光
村の小径で	作詩 山之井慎
旅のよろこび	作詩 山之井慎
なぎさ歩めば	作詩 山之井慎
かごにのって	作詩 田中清光
旅のあとに	作詩 田中清光
行こうふたたび	作詩 田中清光

指揮 早河明子
ピアノ 佐藤やえこ



4th Stage 愛唱歌

そこに風がいる 作詞 岩沢千早／作曲 黒澤吉徳
心の瞳 作詞 荒木とよひさ
 作曲 三木たかし／編曲 横山潤子
昂 作詞／作曲 谷村新司
 編曲 山下祐加
きみ歌えよ 作詩 谷川俊太郎／作曲 信長貴富

指揮 早河明子
ピアノ 佐藤やえこ



1st Stage ヨーロッパの宗教曲に平和の願いを込めて

アヴェ・ヴェルム・コルプス

モーツァルトは1791年の12月にこの世を去っていますが、そのわずか半年前の6月、あたかも自分の死とその後を予見するかのような、どこまでも天上的な、この世のしがらみを超えた清澄で透明な世界を描いています。妻コンスタンツェの療養を世話した合唱指揮者アントン・シュトルのために作曲したものです。

以下「モーツァルト名曲盤101」より一部引用

音楽はより単純素朴で、かつ純粋な美しさをもっているものが、人をもっとも深く感動させるのではないか。このわずか46小節から成る小品はまさに音楽芸術作品の一つの頂点にあるといってもよいように思う。

〈レクイエム〉より

レクイエム(死者のためのミサ曲)はモーツァルトの最後の作品であり、モーツァルトの死によって作品は未完のまま残され、弟子のフランツ・クサーヴァー・ジュースマイヤーにより補筆完成されました。しばしば、ヴェルディ、フォーレの作品とともに「三大レクイエム」の一つに数えられます。

ディエス・イレ【怒りの日】

全曲中特に有名な曲で、テレビや映画などでよく用いられ、合唱が塊となって最後の審判の煉獄の情景と人々のおののきを歌います。安息を得るために通らなければならない裁きの厳しさを、モーツァルトの音楽の中でも最大級の激しさで表現しています。

ラクリモーザ【涙の日】

モーツァルトの絶筆で9小節以降はジュースマイヤーの補筆です。合唱は、涙と共に辛い審判に臨む死者たちの安息を我が身のように願います。

〈オラトリオ「メサイヤ」〉より

オラトリオは宗教的(キリスト教的)な題材を音楽で綴る物語ですが、オペラと異なり、演技はなく、大道具、小道具、衣装などは使いません。

メサイヤはヘブライ語のメシアの英語読みで、救世主とも訳され、合唱の歌詞は全て聖書から引用され英語で歌われます。3部構成のこの曲は演奏に約2時間半かかり、「救世主生誕の預言と降誕」「受難と贖罪そして復活」「永遠の生命」を表現し、ヘンデルの代表曲となっています。

第2部最終曲「ハレルヤ」(ハレルヤコーラス)

日本での年末の定番曲は第九ですが、メサイヤの中でも特に有名な楽曲のハレルヤは、キリスト教の世界では年末に演奏される定番曲となっています。

「ハレルヤ」の意味はヘブライ語で「神を賛美せよ」という意味で、「ハレルヤ」と繰り返される歓喜が、全世界に届けとばかりに圧倒していきます。

1743年にロンドンで初演された際に、国王ジョージ2世が感動のあまり思わず立ち上がり、終わるまで聴衆とともに立ち続けたという話は有名です。

2nd Stage ミュージカル・オペレッタから楽しい曲を

〈ウエスト・サイド・ストーリー〉より

1957年の初演以来、今もたくさんの人に愛され続けられているブロードウェイ・ミュージカルで、「ロメオとジュリエット」を下敷きに舞台を1950年代のニューヨークに移し、若者ふたりの運命の恋を描いた物語です。

トゥナイト

「ロメオとジュリエット」のバルコニーの場面が、トニーとマリアが初めて出会い、恋に落ちるシーンとして描かれ、トゥナイトはそこで歌われるミュージカルの中でもいちばん有名な歌です。

〈メリー・ウイドウ〉より

舞台はパリ、歌唱は独語という欧州らしい国際色溢れるオペレッタで、優雅で甘美な旋律、美しいメロディの宝庫です。原題はドイツ語ですが、日本では英訳の題名「メリー・ウイドウ」で呼ばれています。

メリー・ウイドウ・ワルツ

「唇は語らずとも」とも訳される甘美な旋律で、3幕で歌われる”愛の2重唱”です。お互いに好きなのに、好きだと素直になれない男女。

「言葉にはしなくとも、ヴァイオリンは囁く。僕を愛してと。」「唇は語らなくても、音楽は絶え間なく囁

いている…そう、あなたを愛している。」

〈こうもり〉より

作曲者のシュトラウス2世は「オペレッタ王」とも呼ばれ、この他にも『美しく青きドナウ』『ウィーンの森の物語』など多くの傑作ワルツを作曲しました。

タイトルの「こうもり」は、オペレッタに登場するフォルケ博士に付けられた不名誉なあだ名のごとく、博士があだ名の原因を作った男に仮面舞踏会を利用して復讐のドッキリを仕掛けるというコメディです。

なんと素晴らしい宴!

序曲にも真打ちのワルツとして登場する、第2幕の舞踏会最後の場面でも用いられ、オペレッタの楽しさと軽快さを象徴するこうもりのワルツです。

シャンパンの歌

華やかな仮面舞踏会が開かれている第二幕の中盤、皆がシャンパンを片手に「シャンパンは酒の王様」と歌い、仮面舞踏会が更に盛り上がります。

さあ仲よく二人

シャンパンの歌で盛り上がった後、舞踏会に集まった人たちに「兄弟のように仲良くなりましょう」と歌います。あたかも三幕の刑務所で起きるドタバタの喧噪を鎮めるための伏線のようなのです。

声合唱の響きをお楽しみください

3rd Stage | 混声合唱のための組曲「旅」 私たちは人生という旅をあゆむ

昭和37年度の文部省主催芸術祭合唱部門に参加するため、佐藤真氏が作曲したものです。田中清光氏と山之井慎氏の素朴な詩に、心に染みるような旋律と和音のついた大変美しい曲です。各曲にはナレーションが付けられています。それらは、昭和の時代に青春を送った者の心に残る情景を、ふと思い出させます。

そして今、心の若さを取り戻し「行こうふたたび」と呼び掛けていると思えるのです。

このコンサートではナレーションを省き、合唱曲のみの演奏となります。

1 旅立つ日

のびあがって窓からはじめて見た遠い空 —
母親の背中すがって始めて行ったまばゆい街 —
幼い頃、我々は眼をいっぱいに見開いて毎日小さな旅を続けていました。

そしていま、たくましく育つたいま、若者たちは自らの足で、広く新しい空の下に出ようとしています

2 村の小径で

落ちてゆく夕日を追いかけてどこまでも 一本道を走って行った遠い日 —
小高い山をのぼると、さらに高く大きな山がそびえていたおどろき — あの山の向こうには何があるんだろう？

そしていま、たくましく育つたいま、若者はある日、大きな熊笹を分け、あえぎながら山を越え、静かな小さな村へ降り立ちました。その……「村の小径で」

3 旅のよろこび

若者は絶えて久しく、青空を忘れていました。
ビルの谷間から仰ぐくちばけな、曇った青空 —
工場の汚れたガラス窓から見る灰色の青空 —
いま、その煤煙の中から舞いあがった一匹の蝶のように、若者は

山に飛び海辺に舞い降ります。
山を呼び海に叫ぶ若者の「旅のよろこび」

4 なぎさ歩めば

「ほくはこの夏もこの海へ旅してきたことがあります」若者は節目ごとに答えました。「あの日、やさしく二人を包んでくれた汐鳴りも、今はもう胸をきしませる悲しい調べでしかない」とも言いました。それなら何故ここへきたのでしょうか。夏もいない、誰もいない、みんな帰った浜に若者のたどる記憶の靴音が、かすかにひびき、やがてその姿も小さくなってしまいました。

5 かごののって

ある時、若者は古びたリュックを担ぎ、ピケ帽をかぶって汽車に乗りました。その満員の汽車から田舎の駅に降りたのは三十人あまり、その中から山道を辿り始めたのは三人、それも左へ折れると若者はたったひとりになりました。口笛を吹きました。道ばたの草や木や鳥にも声をかけたい気持ちです。若者はつぶやきました。「おれは おれとして生きている。……旅をしてここへ来たんだ。おれだけの歌だっとうたえる。」

6 旅のあとに

旅の空の下には、けわしい山もありました。見知らぬ草原がどこまでも広がり、見知らぬ海が冷くうねっていました。つかれ果てた若者の靴は重く、明日の地図をいっぱいたたえていた眼は暗く、やがて夜は、ふりかえる道さえとざしてしまいます。「こんなはずではなかった。道をあやまったのだろうか」青い翼を持ったあこがれの鳥は、いま灰色にかわり、おなしく翼をうちふって古い街へ帰ろうと心の中で叫ぶのです。

7 行こうふたたび

若者は、ある日、重く 汚れた空気の、しかし 親しみやすい 機械工場の窓から真つ赤な夕日を見ました。すると、不思議なことに、夕日に映える山脈が生きて心にも浮かび、夕日にきらめく海が、懐かしく胸にあふれ、落ちる太陽を追って走ったあの頃のような息のはずみさえ覚えました。そして若者の眼はもう新しい憧れの地図を四方に向けてのぼしているのです。

4th Stage | 心とところをつなぐ愛唱歌を

このステージは、戦禍や災害に見舞われた多くの方々を忘れず、音楽を通し少しでもあすへの希望と夢を届けられますように「心とところをつなぐ愛唱歌」としました。

そこに風がいます

2007年発行の「風の軌跡 黒澤吉徳 混声合唱作品集」に収録され、その後多くの合唱団で歌われています。風をテーマに、海、松林という歌詞は、湘南海岸の情景を彷彿とさせることから、混声合唱塾レント結成の時より、団のイメージソングとして歌い続けています。

心の腫

坂本九歌唱の代表曲の一つで、1985年5月22日にシングル「懐しき love-song」のB面として発売されましたが、同年8月12日に発生した日本航空123便墜落事故で亡くなり、これが遺作となりました。このため彼が「心の腫」をコンサートで披露することはありませんでしたが、合唱曲として使用されるようになり、広まっていきました。お互いの全てを感じとり、一つになることが「愛すること」。様々な人生経験をしてきた上で、ここから更に深い人生を二人で過ごしていこうというラブソングです。

昴

昴（すばる）は、谷村新司のソロシングルとして1980年4月21日にリリースされ、オリコンチャートで最高2位を獲得しました。繰り返される「さらば昴よ」の意味することは、昴を財の星すなわち物質文明の象徴として、「物欲を捨て精神的な豊かさを追求しよう」という事だと語っています。現代において更に意味深いメッセージといえます。また歌詞の冒頭は、石川啄木の『悲しき玩具』に着想を得たようで「若い頃に愛読した私の心の中の啄木が作品となって出てくる」と語っています。

きみ歌えよ

信長貴富作曲による、混声合唱とピアノのための『新しい歌』の第3曲として収録されている楽曲です。ジャズのような軽やかなリズムののって歌う時、前を向いて生きていく力を音楽から頂く応援ソングのようです。「誰かがいつか耳澄ます」そのことを心にとめながら、大切に歌いたいと思います。また作詩の谷川俊太郎は「中学に入った頃、ベートーヴェンによって音楽を知った。そしてこれと同時に音楽を越えたあるものを…」などと語り、その音楽体験がこの作品にも反映されています。

ごあいさつ

本日はお忙しい中、混声合唱塾レント 第7回コンサートにお越しいただき誠にありがとうございます。地域に根ざした混声合唱団を作りたいという願いで立ち上げ、20年余りが経ちました。

今回、4年ぶりのコンサートを迎えるにあたり、コロナ禍で練習場所を確保するのに苦労しましたが、合唱団発足時からご指導頂いている3人の先生方の、動画配信によるリモートレッスンや、月一回の「顔見せ会」の実施などにより、歌う事への望みを育ててまいりました。

私たちが今回目標にしていることは、響き合うハーモニーの追求です。「何度も繰り返し練習する中で、楽譜から新しいことが見えて来る。」この言葉を励みに、より良い表現を求めて練習を重ねてきました。

今、世界のさまざまな場所で災害や戦争が起きています。平和を願う者として共に声を合わせて歌う事は、ささやかながらも、平和を願う祈りに繋がって行くのではないかと思います。

今日ここに集い、皆様に聴いていただき共に音楽を楽しむ場を持てました事を、本当に嬉しく思います。

本日は、明るく希望に満ちたレントらしい混声合唱の響きを、最後までごゆっくりお楽しみください。

混声合唱塾レント 一同

レントメンバー (35名)

■ソプラノ 14名

井出玲子 高山玲子
梅本紀子 本渡 紫
柿沼礼子 真崎光洋
熊沢光江 村川理枝
坂口洋子 山崎あつ子
坂本浩美 渡辺美千子
佐竹洋子 渡部則子

■アルト 10名

加地治子 細谷スミ江
久保田堯子 三富春美
佐藤ちづ子 茂木静子
滝田郁子 山部節子
平野康子 横山京子

■テノール 6名

石井淳一 俵 誠
田井精一 中村 廣
高山範雄 松田次郎

■バス 5名

石井幹雄 岸間 正
小川和夫 渡邊秀夫
黄川田栄

舞台監督 脇 伸一

レントのあゆみ

- 2002年 4月 混声合唱塾レント 発足
- 2005年 9月 第1回コンサート 茅ヶ崎市民文化会館小ホール
- 2008年 9月 第2回コンサート 茅ヶ崎市民文化会館大ホール
- 2011年 9月 第3回コンサート 茅ヶ崎市民文化会館大ホール
- 2013年 5月 歌劇「椿姫」出演 茅ヶ崎市民文化会館大ホール
(茅ヶ崎交響楽団創立30周年記念第59回定期演奏会)
- 2014年 9月 第4回コンサート 茅ヶ崎市民文化会館大ホール
- 2016年 9月 第5回コンサート 茅ヶ崎市民文化会館大ホール
- 2019年 9月 第6回コンサート 茅ヶ崎市民文化会館大ホール
- 2023年 9月 第7回コンサート 茅ヶ崎市民文化会館大ホール



♪メンバーを募集!

皆さん、一緒に歌いませんか!

練習日

月2~3回(土曜日午前)

練習場所

香川公民館(茅ヶ崎市香川)

下寺尾自治会館(茅ヶ崎市下寺尾) 他

会費 3000円/月 入会費:なし

連絡先

中村 (電話 0463-71-4445)

田井 (電話 0467-51-7482)

●ホームページ

明るく、楽しく、最後まであきらめない!

Lento
混声合唱塾 レント



混声合唱塾レント

Q 検索

